

## 令和7年度第3回 静岡市道の駅整備検討委員会 会議録

1 日 時 令和7年12月5日（金） 10時～11時半

2 場 所 静岡庁舎 新館4階 建設局災害対策室

3 出席者  
【委員】内海委員、山内委員、池谷委員、伊賀委員、青木委員  
服部委員、中山委員、辻本委員  
(欠席者) 筒井委員、大澤委員  
【事務局】尾焼津参与兼課長、岩瀬課長補佐兼企画係長  
鏡味主査

4 傍聴者 0人

5 議題  
(1)道の駅整備の配慮事項について  
(2)施設規模・施設配置の基本方針等について  
(3)管理運営体制の方向性・事業費等について

### 6 会議内容

(1) 開会（事務局）

(2) 道の駅整備の配慮事項について（事務局（鏡味主査））

(中山委員)

民間事業者ヒアリング結果の中で、3社ほど「アクセス性に課題」との回答を得ているが、具体的にどのような点でアクセス性について課題を感じているのか教えていただきたい。

(事務局（岩瀬課長補佐）)

アクセス性の具体的な課題点について、国道1号線からの進入についてである。既存のアクセス路はあるものの、車両の走行速度等を勘案した際に、安全な出入りが可能か等の意見を得た。また、上り線からのアクセスについても今後検討する必要があると考えている。

(中山委員)

導入機能・アイデアについて、二次交通手段の確保とあるが、具体的にどのようなアイデアなのか教えていただきたい。

(事務局（岩瀬課長補佐）)

例えば、「道の駅」と新蒲原駅を結ぶ交通手段等、道の駅と次の目的地を結ぶ交通モードの必要性について意見を得たが、具体的なモビリティについて検討中である。

(青木委員)

ヒアリング先が8社とのことだが、どのようにして抽出したのか教えていただきたい。

(事務局（岩瀬課長補佐）)

ヒアリング先の企業については、事務局から地域の地元企業や、道の駅運営企業等を抽出してヒアリングを実施した。

(内海委員長)

もともと参入意欲が高いと想定される企業にヒアリングを実施したという認識でよいか。

(事務局（岩瀬課長補佐）)

その認識でよい。

### (3) 施設規模・施設配置の基本方針等について（事務局（鏡味主査））

(池谷委員)

目標とする年間来場者数が100万人ということだが、年間来場者数100万人の道の駅はどのようなものなのか、近隣道の駅などの事例と併せて補足していただければスケール感等わかりやすいと考える。

(事務局（鏡味主査）)

第1回道の駅検討委員会でお示ししたものになるが、「道の駅グランテラス筑西」は年間来場者数約100万人程度、「道の駅まえばし赤城」は当初約80万人程度の年間来場者数想定だったが、約400万人の来場者数となっている。近隣であれば、「道の駅そらっと牧之原」は開業から約1か月で9万人の来場者数となっており、「道の駅とよはし」は年間200万人前後で推移している。

(内海委員長)

「道の駅そらっと牧之原」の話を聞くと、年間来場者数100万人を目標とすることに妥当性を感じることが出来ると考える。

(服部委員)

年間来場者数を 100 万人と想定するとのことだが、飲食施設や物販施設等の集客施設について、それだけ集客力が見込める魅力的な施設を入れることができるか。他の道の駅と比べた時にどうか。

(事務局（岩瀬課長補佐）)

今後、運営事業者を決定していく中で具体化していく予定であり、現時点では、立寄る人数に応じた施設規模としており、各テナントが入る細かな諸室割りまでは想定していない。運営事業者を決定した後、施設の詳細な内容や規模について持続可能な施設規模やキラーコンテンツの導入・発信について議論していく予定であることから、実施に向けては現在の計画から変更となることも想定される。

(服部委員)

屋内施設について、大小様々な大きさが示されているが、そのあたりはどのように考えていくのか。主要な物販については粗方決まっているか。

(事務局（岩瀬課長補佐）)

入る施設が具体化していく中で色々な検討を踏んで大きさを決めるので、今ここで全てを決め切るということではなく、実施の時に検討していく。

前回の構想にもあったように、キラーコンテンツはしづまえ鮮魚、蒲原地区で言えばいわしの削り節もあり、発信できるものになると思っているので、運営事業者と検討していくたい。

(内海委員長)

計画段階であることから、目標人数を定め、それに応じた施設規模の概算を出した段階という認識でいるが良いか。

(事務局（岩瀬課長補佐）)

その認識でよい。

(辻本委員)

施設規模は概算とのことで、収益事業となる飲食施設や物販施設等についてこれから変わることであるが、収益施設の施設面積が小さいと感じる。想定の来場客数が 100 万人とのことで、客单価を例えれば 2 千円とした場合 20 億の売り上げとなる。それだけ売り上げるにこの 2 つの収益施設では小さいと感じるが、その点はいかがか。

(事務局（岩瀬課長補佐）)

目標とする年間来場者数とそれに応じた駐車場の規模を算定しており、それらの数字をもとに施設規模を算定している。今後、運営事業者との協議の中で物販や飲食施設を含むその他の施設についても増減が生じることが見込まれる。

(辻本委員)

施設配置の検討のところで見ると物販施設とトイレがほぼ同じ大きさであるが、収益事業の部分についてもう少し広くするということは今後の話となるのか。

(事務局（岩瀬課長補佐）)

情報発信機能や物販施設、飲食施設などについて、狭いところは大きくするなどについては今後の話となる。

(辻本委員)

基本構想の地域振興施設にある物販や飲食のイメージのような広さがとれないのでは。かなり広くとらないと 100 万人の来場者がきて採算をとるには難しいのではないかと感じる。それが、今の規模では採算がとれないということになれば、水色で示しているエリア（地域・観光案内施設等、事務所等、物販施設、飲食施設、トイレ）が拡張されることがこれからあるということか。

(事務局（岩瀬課長補佐）)

運営事業者と規模が足りないということで協議された際には、拡充していく。

(辻本委員)

運営事業者との話し合いで修正していくかもしれないということか。

(事務局（尾焼津参与兼課長）)

運営事業者は、まだ決定しておらず公募も開始していないため、今後、運営事業者が決定したあとの調整項目の一つとなる。

(服部委員)

物販のエリアが小さい気がしており、よほど集客が見込める物販が入ればよいが、今の規模だと心配である。他の道の駅では物販エリアは広いので。

(山内副委員長)

近年、道の駅の大型化が進んでいる中で、肌感覚としては施設規模が小さいという印象も受ける。その一方でどの程度の規模であれば妥当なのかという点についても、現時点での算定基準以外の根拠をもって示す術がないことも理解している。

実際に収益施設の面積を増やす際に、真っ先に削られるのは地域・観光情報案内施設となってしまい、観光案内のところに野菜が置かれているということもある。道の駅は単なる物販施設ではなくて、地域の情報を得る場所である。売り上げ至上主義となってしまうので、計画当初から、ある程度拡張性や余裕を持たせた計画としても良いのではないかと考える。

盛土にすることであるが、堤防の高さもあって難しいかも知れないが、2階建てにすると駿河湾が見えるレストランとか今は駿河湾が見えないので、そのような考え方もあるかと思う。弾力的に考えていくよという事だと思うが、今の大型化する道の駅から考えるとコンパクトかなと思う。

また、自動車以外にも二輪車専用の駐車場についても必要であると考えている。他の道の駅ではバイクが多く、小型駐車場に停めてしまったりしているので。

(事務局（岩瀬課長補佐）)

施設規模の算定根拠として、現時点では年間来場者数とそれに見合う駐車場台数から算出する以外、方法はないものの、今後の運営事業者との議論の中で施設規模の拡大が必要となれば柔軟に対応していく。

また、二輪車専用の駐車場についても、近隣の道の駅の運用実態を踏まえ、必要と想定される駐車台数を確保していく。

(山内副委員長)

最近はドッグランなども設ける施設もあったりするが、既存のトライアルパーク蒲原の緑地で必要であれば確保するという認識でよいか。

(事務局（岩瀬課長補佐）)

今現在も機能としてあるが、今後も必要ということであれば、本市が整備する中で考えていく。

(池谷委員)

道の駅整備予定地は、基本構想にて示されたとおりハザードの対象となっている箇所がある。対応として盛土することだが、具体的にどの程度の高さまで盛土するのか。

また、大型車の駐車台数は何台程度想定しているのか。駐車場の配置についても考えられているか。

(事務局（岩瀬課長補佐）)

富士川の想定される浸水高さが、現状地盤から 3.0m の高さと言われている。今後、設計・測量等を実施し、正確な高さを測る必要があるが、現状地盤面から 3.0m 盛土し、その上に駐車場や施設を整備する想定である。

大型車については 34 台の駐車を想定している。大型車の軌跡なども想定しており、示している大型車の位置で収まると考えている。

(伊賀委員)

年間来場者数を 100 万人と想定する中で、実際に 100 万人の集客は可能なのか。オーブンしたばかりであれば集客も多いが、ずっとそうとも考えられない。道の駅の来場については多いところもあるが、少ないところもある。決して易しい数字ではないと思うがどう捉えているのか。

(事務局（岩瀬課長補佐）)

年間来場者数 100 万人の考え方だが、事業者ヒアリングの際に、国道 1 号線という大動脈に近接している関係上、年間来場者は 100 万人を見込めるといった意見を得ている。

(伊賀委員)

サウンディングした事業者は前向きな感じなのか。

(事務局（岩瀬課長補佐）)

そう。いくつかヒアリングした中では国道 1 号の沿線であればそれだけ集客が見込めるという同様のご意見をいただいている。

#### (4) 管理運営体制の方向性・事業費等について（事務局（鏡味主査））

(青木委員)

地元事業者等の参画の必要性と記載があるが、例えば販売事業者や納入先の選定などで「地元優先枠」のような配慮は可能なのか。地元では規模は小さくても本当によい物をつくりっているので配慮されるものなのか聞きたい。

(事務局（岩瀬課長補佐）)

現時点で具体的に説明することは難しいが、今後、運営事業者の決定には地元企業の活用といった視点も入れていきたいと考えている。また、地元事業者も含め、地域全体で道の駅を盛り上げていく仕組みづくりを検討していければと考えている。

(内海委員長)

道の駅が地元に根付くには住民の関わり方が非常に重要であり、愛着をもって施設を盛り上げてくれ、施設の活用に一役買ってくれる。市民が直接関わられる仕組みやシステム、「きっかけ」があれば、この道の駅が地元に根付きやすいのではないかと考える。

(辻本委員)

概算事業費について示していただいたが、県立図書館も頓挫してしまっている中で、予算が確保できるのか、事業費についてはこれから減らしていくという方向性もあるのか。

(事務局（岩瀬課長補佐）)

民間活力の導入をしていきたいと考えているが、具体的な手法についてはまだ決定したわけではなく、何が最適な手法なのかについて検討を深めていく。

また事業費についても人件費や物価が高騰している背景を踏まえ、直近で整備した道の駅をベースに建設費・工事費等の単価を設定して、概算事業費を積み上げている。今後、運営事業者とコスト削減が可能な箇所等について協議を重ね、対応していきたいと考えている。

(辻本委員)

整備手法について、公設民営による整備手法の記載があるが、民設民営（PFI）による整備は想定していないのか。資金調達については民間では出来ないということなのか。

(事務局（岩瀬課長補佐）)

整備手法については現時点で特定の手法に決定しているわけではなく、記載されている内容についても、ヒアリング先事業者に対して「事業者として参入する上で望ましい整備手法は何か」について得られた意見である。今後、事業者公募に向け、ヒアリングより得られた結果も踏まえ条件を整理していく必要があると考えている。

(辻本委員)

公共で資金調達をすると記載があるが、事業者が資金を出してやるという話もありえると思うが。

(事務局（尾焼津参与兼課長）)

資料の記載については、あくまで民間事業者から意見があった整備手法の説明の案内となる。手法は様々あるが、民間のノウハウを活用するように考えていく。

(辻本委員)

公民連携事手法が書いてあるが、そこはまだ、事業者がこれから黒字になるかもしれないし、その事業者さんも話し合いの中でもうちょっとが面積を広くすることも増えてきたら、そのやり方はまだ決まっていないということでよいか。

(事務局（尾焼津参与兼課長）)

ヒアリング結果ということでヒアリングの業者さんからの意見という形となる。今後公募に向けて条件等を整理していくかないと想うので、その中でどういった方式なのかについて検討させていただく。

(内海委員長)

具体的な検討を進める上でベースとなるものが必要であり、そのための当たりを付けるためのヒアリングであったと認識している。ゼロからでは何も始まらないので、ヒアリング等から規模等を算定し、今後変更等もある中、ここからスタートという認識で良いか。

(事務局（岩瀬課長補佐）)

その認識でよい。

(山内副委員長)

静岡市の道の駅基本構想では民間活力を導入する PFI を前面に押し出していたと思うが、整備手法の方向性について、基本計画ならば望ましい整備方式を打ち出すべきだと思われるが、まだ明確に示すことが難しいという印象を受けた。また、お示しの概算事業費の中には、アクセス道路等の関連事業費は含まれていないという認識で良いか。100 万の年間集客をする集客施設には、周辺道路の負担を想定した投資が発生するので、当然そこも想定される。

(事務局（岩瀬課長補佐）)

整備手法の方向性については、まだ明確に示すことは難しく、今後事業者公募に向け条件等を整理し柔軟に対応していくことを想定している。また、アクセス道路については検討中であり、現在の概算事業費の中には含まれていない。

年明けに想定されているパブリックコメントまでには、整理を行いたいと考えている。

(山内副委員長)

地域にかかる負荷があるので、周辺整備なども考えていただきたい。

(事務局（岩瀬課長補佐）)

しっかり考えていく。

(中山委員)

(仮称) 道の駅「蒲原」と新蒲原駅を結ぶ、また地域への誘導などコンセプトにも地域を結ぶハブという記載もあり、地元の方か地域にも誘導して欲しいということがあるが、一方で駐車場の確保が難しいということであった。バスを走らせた方がよいという話も出たが、バスを走らせるにしても乗務員不足ということもあり、また需要が増えている傾向がないところには必要かという議論と、一方で地域の足を確保したいという意見もあり非常に悩ましいところである。それは今後議論されていくという認識で良いか。

(事務局（岩瀬課長補佐）)

基本構想の中でも、その地域の交通実情に合わせた移動手段を検討すると記載しているので、今後、具体的にしていくものだと思っている。それは運営事業者との話し合いや地域の方々の話し合いで、何がここに最適なのか決めていく。

また地域への周遊がないということが課題の一つだったので、この道の駅をできることによる周遊で地域に人が戻ってくるような仕掛けをどうしていくかということも今後進めていきたいと考える。

(内海委員長)

行楽シーズンや、日常利用でニーズが変動することから、シーンやニーズに合わせ、複数の交通モードを組み合わせた柔軟な対応が必要となることも想定される。

(5) 次回の検討委員会開催予定及び、議事内容について（尾焼津参与兼課長）

(6) 閉会